山満多山

上

11

Hokusai's

③

189

便〻館先生閲
大原亭主人撰

繪本狂歌山満多山

北斎画

耕書堂梓

山復山何工のかこうし出し梓より
彫りし水中に水誰か染のこす
墨色そわかつ蒼波丹青とはしりか
こゝに画狂人北斎よしくて備して
勝地をあらす者ハ大原亭のあるじ
しるすなりし式ハ謝安が故を

ちりさへましハ亜運が履とれは
三年をつくさやぬしにさまよい
しら満仰りしらぢうしの云のなふ
を揃しそくらし山成子しむの
情とそしるとつや仁者の心をへお
とのつし通ひつんなし識なんか
山井のあさくハおもひ捨さる
方人なるへし

便ゞ館
湖鯉鮒が
しるす

市かやの一八
可とりの
ちとせをく
恵方詣て
春の
神住

南亭
笑麿

五節亭
仲住
八幡の旗の
たなびくより
白めやかに

見へわたる
むすぶ
女連

九霞亭
明輔
川ばたに
鹿も
人も山の見ゆ
恵方ゆ
向ふて
弓矢
八幡

梅月堂
雁人

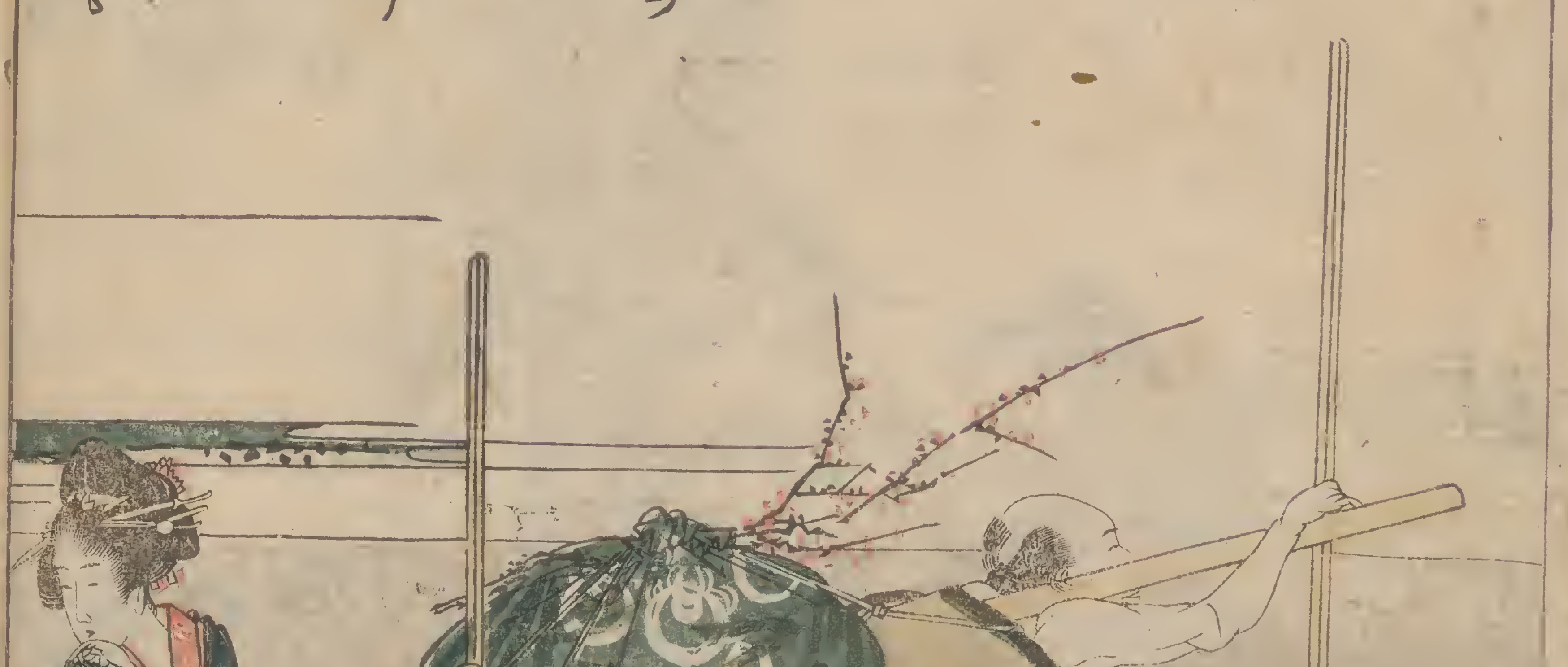
京紛の人ハ
あてひと
志霞
ひけきの
ちるさ
妙法寺
うら

雛吉楼
錦戸

はなさかん
とむさき
よもす
こそひらく
むしけれ
うたむ
春の
うちえ

曙亭
鳥雛

霞より
一天四海
ころくく
有ちんで
笠海
妙法寺
道



入江吉住
初午やおひ
しくよ
東風の
かくらくらする
稲荷山居

三花亭
多理楼

笛太鼓
うらしまうくるも
田と畑の
うら若ぐさの
年さかる
なる

胡蝶園蓑

汀よりも
王子の杉よ
うらうらく

太鼓のこゑく
きり年
まつり
十三軒
琴成

王子さらふ六人
勝しや
太ろく
ちるさうく
まゆとき
きり年みや
尾花喜

小桶のあみ姫
つりや
王子屋呼子
まつの人も
五社く

撰洞 作

子日よりもちいりめは
むつましや
人も五社
まりの社

三帖仲折

王子まうでくるゝ
御判も福も
きたり
まゐらせし海老やの
翔の料理

年十万来

こゝはまたけふの
つもまうでの
王子のかさる海苔

前も市のまゝ
門の稲荷

万里的丸

王子の
さかゑや門の
まもり人は
こいのぼり
のまゝま
たつ

蚕見貝

初午にまうでんの
その日照の
王子むかう
味への
まる

千頴陰久
しら〳〵と
こしらひも
花まつ山
旭よりとゞろ
花の下紐

宝常春
むつまじ
さくらえがけ
しらぬこそ
さくしたりや

花鳥山道
あらし山花を
うつりゆく
夜陰皆

弦音高成

おくりあふ
人も
まつらし

春風舎
門柳

年寄しかりし
きしろし
かすみ花の
花盛
派らん

三十字歌云
花もさかり
峰にも風の
人のまつまで
花の
ひらけ

菫紫亭
草魚

まつかと神の
御森の
さくら桜
雉も鹿の
声のおかしく

三金舎
翠丸

うなほとゝき
箕あしかもと
ちりに山々
ちらは鏡
ちりぬ
雉たちにむ
花

今風亭
桃波

消えぬ者は
のこる雪をか
ちらし山や
雉子の
声をと
たるの
出来ゆき

向馬亭
悉方

いさつるは
風もいけしり
さるそしちち
ふくめよ
借まし
見かる道の記

目白
北女

夏来ぬくし
猶まさかへるは
きまのみ

あきれより
借やく
段しるらん

目白
雲方子

神よりも
帰いちよは
京つしつく
ちりのちる
花そ
うれし
き

野狐捨

卯花ミ田よりつゞきて
春風にそ鬼燈の
東屋にや
物草人

一本ミ了意の
高田風さそ
あさる
若菜摘時の
とり会ふよし

唐山隠

むらさきく菫出し
嶋のけふ
と

いもうと高田の
あくまり

田舎ふ阿保丸

かすみかる気よ
江戸声鳴く
こゝ名も縁と
高田あるに

東雲庵
雄石

諸羽人の矢よりも
ちらさ出る
こゝ田のこゝ傷よ
めらくつれ

豊支成

石垣の岩にせき[?]たる滝は
かよ出り
しらく
しら玉門村[?]

錦綾丸

出水より落る大鼓の
とんとうし
川は巴に
水も出さう
かく

風琴亭松居[?]

川あとの
よる水のぬれて
とんとう
梢

とゞろきし音も
かへりて
いはほの

正梅亭芳輔

牛込のうしは
川出て
若葉とる
出水は子の
あらふうき
川よ

水枕亭舟旦

罧[?]むくあらき
さとてのあはひ
しらく
きはつけまつ
子ら等の
袖しほり

煙里庵 粉号

むしきゝの郷にゆふくれは雲もこえかはく鳴る花の江戸川

錦秋亭 三荻

茎あらて揮座うらんりよ石の春てる星水に流るく

旭丸紀

水底にまよふ紅よう川ながし

よみすけさるの泊やまそ

墨斎北岱

一葉のちよみつる江戸川ところの水は秋つる星虫

朝笑庵 茶沸

らん花の菜のらちに江戸川のさしよ光まれる星虫のうり

長白亭
五月
つくまなく
八百八丁
をうるほし
岐に入る
玉川の
水